

平成 30 年度 大阪府立旭高等学校 第 3 回学校運営協議会

日時：平成 31 年 1 月 28 日（月）午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分

場所：本校校長室

委員

会長	関西大学文学部 准教授	森 勇太	
副会長	大阪市立旭陽中学校 校長	進藤 文代	所用により欠席
委員	大阪市立高殿小学校 校長	北浦 正美	所用により欠席
委員	平成 28 年度本校 P T A 会計監査	徳島 美穂	
委員	本校 P T A 副会長	佐藤 章子	
委員	本校 P T A 会計	安藤 裕美子	

1. 校長挨拶

省略

2. 委員挨拶

省略

3. 資料の説明（校長、および学校側事務局員より）

□ 平成 30 年度学校経営計画及び学校評価について

(1) 本年度の取り組み内容と評価

- ・学校教育自己診断で「授業は分かりやすい」に生徒の肯定的回答 57.9%、授業アンケートで、「授業内容に興味関心を持つことができた」に肯定的回答 80.5%、「授業を受け、知識・技能が身についたと感じる」に肯定的回答 82.5%と、いずれも評価指標を超えている。
- ・大阪府立高校国際関係学科のインターナショナルフェスティバルに代表 9 名が参加し、1 人が入賞した。他校との交流もあり、参加した生徒にとってよい刺激となった。
- ・英語落語、英語ディベート、租税教室講演会など、特別授業を実施した。
- ・2020 年度大学入試改革を見据え、英語 4 技能を図る外部検定では、タブレットに向かって話すという慣れの必要な試験形態への対応が必要となる。そのため、これに対応した GTEC の実施に、本年度から取り組めた。
- ・国際教養科の 1 年生では、JICA 訪問、講演会、2 年生では、フィジーに関する講演会、インドネシアの文化紹介を通し、異文化理解を深める取り組みを進めた。
- ・生徒指導：遅刻者数、年間のべ 2151 件（昨年度は 3000 件超）で減ってきてはいるが、学年が上がるにつれ、さらに秋・冬になるにつれ、遅刻者、欠席者数が増えている。
- ・生徒指導行事として、警察の協力を得て、薬物防止に関する講演会を実施。
- ・部活については、女子の加入率が少し低いが、男子の 8 割、女子の 6 割が参加。
- ・昨年度からの大学入学定員厳格化の影響で、本校においてもかたく堅実という傾向からか、センター入試の受験者の減少がみられた。
- ・同様の傾向から、夏の A0、9 月の指定校の出願が予想以上に多かった。センター試験、1・2 月受験を目指すように指導に取り組み、力を入れてサポートする。
- ・教員研修について、授業公開、見学を教員相互で行ない、生徒理解に関する研修を 3 回おこなった。ICT、クラス開きについての研修はできなかったので、評価は△とした。

- ・ICT 活用については、校内の連絡にメール、掲示板を活用することが、徐々に定着してきた。
- ・地域連携として、高殿小学校児童・保護者を招き、理科の実験教室を実施した。また、本校で学んでいる留学生が参加し、旭陽中学校にて出前授業をおこなった。吹奏楽は地域福祉施設通所者を招きミニコンサートを行い、水泳部は、地域自治会の秋祭りにボランティアとして参加した。
- ・HP 更新は、学年の配布プリント連絡、クラブ関係、校長だより、オープンスクール関連、緊急連絡等取り組んでいる。

□ 学校教育自己診断の結果・分析

- ・保護者からの回答について、「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」「将来の進路や職業について適切に指導」など5項目において、それぞれ肯定的回答が昨年度よりも高くなった。「生徒の気持ちを聞きつつ、指導すべきはきちんと指導する」という方針が着実に根付いていると言えるのではないかと。「学校は、いじめについて子どもが困っていれば、真剣に対応してくれる」との設問では、本校ではいじめを疑わせるような状況が極めて少なく、周辺でこうした事象を見聞きする機会も少ないので「判断できない」との回答が最も多く（53.5%）あり、肯定的回答は数値的には34%にとどまっている。
- ・「人権意識の尊重や社会ルールを育成」について、おおむね評価を得ている。（肯定的回答 71.5%）
- ・保護者の回答で、学習活動について、「子どもは授業についてわかりやすいと言っている」の肯定的回答は39.1%である。ところが、同様の設問での生徒の回答は、昨年度から49%→57%と上昇しており、授業アンケートでも、80%超の生徒は「授業の進度や難易度は自分にとって適切である」と回答している。こうした結果を見ると、「わかりやすい授業」という点では一定の成果を出していると考えられる。そうであるのに、保護者回答で「子どもが授業をわかりやすいと言っている」がおよそ40%にとどまるのは、生徒が1科目でもわかりにくいと感じている授業があると、「全部の教科が理解できていない」と保護者には伝わっている状況が考えられるのではないかと。
- ・「授業が分かりやすい」の次の課題として、「授業が身についていると実感できる」生徒が増えることをめざしたい。
- ・家庭学習がわずかではあるが減っている。日々の学習時間が増えるように指導が必要である。
- ・校舎：トイレの改修の要望多い。
- ・学年別メルマガ、国際交流（留学、国際交流）は、引き続き今後も積極的に取り組みたい。

協議会委員コメント：家庭での会話について。家庭で本音が出ているとともとれるのか、子どもよりも親の方が深刻に捉えているのだろうか、親よりも子どもの方が「授業がわかりやすいと感じている」ということで少し安心した。

□ 広報活動

- ・「公立高校進学フェア 2019」は、7月29日（日）インテックス大阪で開催。台風の影響で、開会時間が10時から12時に変更され開催時間は減ったが、昨年度実施された際の参加者と同程度の参加者であった。
- ・鶴見区では、茨田中学校に場所が変更された。参加した保護者数は、230人であった。
- ・ブースで個別説明をする形態が多い。
- ・在校生の出身校を中心に、本校教員による中学校訪問を実施。82校を訪問した。
- ・オープンスクールは、昨年度とほぼ同人数の参加。保護者の参加が増加しているのが近年の傾向で、2016年から17年にかけては、26%増。17年から18年にかけてさらに11%増。3年前と比べて、保護者の参加は1.4倍となった。

- ・また、女子の参加が増えている。男子に対する女子の割合は、2017 年は 2.23、今年度は 2.35 である。
 - ・旧 2 学区からの参加者が多い。また、旧 4 区（京阪、J R 学研都市線沿線）からの参加が多い。
 - ・オープンスクールで 1700 人、説明会で 1500 人、計約 3000 人超の方々に、広報を行ったことになる。
- 協議会委員より質問：入学生徒の男女比はどうか。回答：ほぼ説明会参加者の男女比が反映。

□ 平成 31 年度学校経営計画及び学校評価について

〈めざす学校像〉

- ・この 3 年間はおよそ同じ内容となっていたが、今後、新教育課程に向けて発展的に手直しをした。
- ・「情報化、グローバル化に対応、国内外で社会貢献できる人物を育てる」をめざす学校像に挙げた。
- ・「確かな学力を育む」の項目は変更なし。
- ・「社会の諸問題の解決に向けて積極的に行動する」を追加。

〈中期的目標〉

- ・「1. 確かな学力の育成」を掲げた。「主体的」→自ら考える、「対話的」→一方通行ではなく交流しながらの「学び」の視点を挙げた。学習活動の質を向上させる。
- ・「学習を振り返る場面、グループ等で対話する場面、考える場面、教師が教える場面等、授業構成を考える」「教師が専門性を発揮する」「ICT は必要な場面でしっかり活用する」等を踏まえていく。
- ・大学入学共通テスト（新テスト）に向けて、英語 4 技能評価にかかる民間の資格検定試験の活用を図る。
- ・「2. 豊かな心・社会人基礎力の育成」を挙げた。豊かな心や創造性の涵養は、短絡的にそだてられるものではないので、体験的に少しずつ身につけられるように指導する。
- ・国際交流（留学生の受け入れ、姉妹提携、海外語学研修、日本文化への理解を深める）をさらに充実。
- ・学校行事、国際関連行事、語学研修や部活動をとおり、社会人基礎力を育成する。
- ・社会に出た時にフレキシブルに対応できるように、生活の基本を身につける。
- ・「3. 学校の特色づくりと組織力の向上」を掲げ、「よりよい旭」に向けチーム学校として、まい進できる組織構築に努める。将来構想委員会を核として課題解決に取り組む。
- ・事務的な仕事を減らし、生徒に向き合う時間を確保する。部活動休養日、学校休養日の設定に取り組む。

〈本年度の取組内容及び自己評価〉

- ・前年度に実施したものを改編し、具体的な取組を列挙した。

□ 平成 31 年度教科書選定と平成 31 年度入学生教育課程について

- ・資料を紹介
- ・平成 31 年度入学生教育課程については、前年度とほぼ同じである。

4. 協議（●協議会委員 ○校長および学校側事務局員 司会：森 学校運営協議会会長）

●学校経営計画の中期的目標に「国際感覚を醸成するために国際交流と同時に、日本文化への理解」もうたっているが、異文化理解の授業では、日本人生徒は日本文化を学ぶ機会があるか。

○国際教養科 2 年の「国際理解」の授業では、3 人の教員がそれぞれの担当者の得意分野に合わせて授業を考えているので、日本文化のトピックを取り上げることもあるが、必ず行なうわけではない。

○書道選択者が書道を学んだり、音楽では和楽器の琴の授業がある。また、語学研修では、事前学習で日本文化を紹介するプレゼンに取り組む機会がある。もちろん、日本史や古文は全員が授業で学んでいる。

●日本文化に関する理解を深められる機会があるとよいのではないかと私も思う。

●ICTとは具体的にどのようなものか。

○Information Communication Technologyの略で、授業での主な利用方法は、パソコンやスマホをプロジェクターにつないで映しているというもの。各教科でツールとしてさまざまに利用している。生徒にとっては、授業での関心は高まる部分もあるが、かえって頭に残らないといったこともあるので、どのように活用するかは課題である。情報科の授業では、著作権等についても学んでいる。

●平成31年度学校経営計画の「めざす学校像」では、「情報化、グローバル化に対応」とうたっているが、今日の情報過多の社会においては、自分で情報を見極める力、また自分から情報を発信する力が必要である。ただ、発信する際には危険性も伴うので、気をつけなければならない。何気なくアップしたものが将来の就職にも影響することもあり、個人情報の扱いにも注意が必要である。ネット社会の有用性とともに、その危険性にも対応できる人材の育成が大切と思う。

●学校経営計画で、安全について挙げてある部分があるが、安全というと災害だけでなく、情報化社会における危機も含めて「安全」と思うので、安全の中に「情報化に関する危機管理」も含めて考えてはどうか。

●学校から保護者向けのメルマガで、学校の様子が分かってありがたい。メルマガの話題が、子どもとコミュニケーションするきっかけになって、とてもいい。

○学校の事を知っていただければ、生徒・保護者双方にプラスになるのではないかと思います、発行している。

○紙の学年だよりも発行し、それに加えて大事な情報を、メルマガでタイミングを見て出すようにしている。メルマガを見た保護者から連絡があり、ちゃんと見てくださっていると感じる。

●進路について、ここ数年、センター試験受験者が減少傾向にあるが、今後どのような指導を目指していくのか。

○難しいが、一般入試を最後までがんばらせることを目指す。指定校入試などで入ると、高校での勉強への努力が合格と同時に止まってしまう傾向があるので、最後まで頑張らせることが大切である。推薦等での早期の合格者については、大学からの課題が出ているので、ちゃんと課題をしているかも含めて指導していきたい。

●大学でもA0入試志願者が増えた。高い倍率だったので合格者を絞らなければならなかった。合格にしたいA0志願者が例年よりも多かったが、定員の制限があり合格にできなかった。A0、推薦について、合格が難しくなっているのが傾向だと思う。現役生については最後での伸びが大きいので、最後まで妥協せず頑張らせるという現在の指導を続けていきたい。

○専門学校では、5、6月ごろに説明会に出席すれば合格内定という学校もあり、大学や専門学校の入試が早まると、生徒が学校の授業に集中することが難しくなるという現状がある。AO入試、推薦入試で早くに進路が決まり、高校での学習がおろそかになった生徒は、大学でどのように学んでいけるのかと心配している。その後大学へ行っておおいに能力を伸ばすために、高校で基礎学力をしっかりと育てていきたい。

●どんな教員がいるのかも含めて、単に大学のランクにとらわれず、発信している内容をよく見て進路決定してほしいと思う。

以上の協議を経て、「平成30年度学校経営計画及び学校評価」、「平成31年度学校経営計画及び学校評価」が承認された。

3. 校長謝辞

省略